

令和4年10月6日(木)、(一社)九州地域づくり協会は、九州内の自治体に向け、「新国富指標」を活用した、地域づくりの先進事例を紹介とともに、新国富指標導入のヒントを提供することを目的に、第9回地域づくり政策セミナー「新国富指標を用いた地域経営～持続可能で豊かな地域づくり～」を開催しました。

当日は、コロナ感染対策のため、会場参加とZoomウェビナーによるオンライン参加を併用し、144名(会場50名、Web94名)の方々にご参加いただきました。

主催挨拶



(一社)九州地域づくり協会
理事長 田中 慎一郎

来賓挨拶



九州地方整備局
副局長 赤松 忠幸 氏

基調講演

九州大学 馬奈木教授より、「**新国富指標によるSDGs目標の優先度**」をテーマに、持続可能なまちづくりに向けて新国富指標を用いて地方において優先されるべき施策の考え方等についてご講演いただきました。



九州大学 工学研究院
教授 馬奈木 俊介 氏

新国富指標とは… SDGsの達成に向けて、これまでGDPで測れなかった「みえないものの価値」をみえる化(数値化)し、包括的な富(新国富)を表す指標

価値を測るのではなく、指標(モノ/サシ)を使うことで地域の問題を企業と一緒に解決することが目的である。地域の経済の持続性を担保しながら地域の経営力や、企業の利益を担保することが成功につながる。

事例報告

SDGs達成への取り組み等について、国の行政を代表して整備局、馬奈木教授と連携して「新国富指標」を活用したまちづくりを進めている中間市と国東市の2市より事例報告をいただきました。



会場の様子(基調講演)

「地域経営とまちづくり」



九州地方整備局 建政部
都市調整官 松田 純一 氏

住民や地域が享受する「豊かさ」を意識して目的別に評価指標を設定することができる。「都市構造分析」を説明。新国富論の考え方を活用する際に効果的。



中間市 市長
福田 健次 氏

「中間市が取り組む 人とまち再生力日本一」

新国富指標を構成する要素の一つである「健康資本」を増進させ、市民の健康寿命を伸ばし、医療費・介護費の削減に寄与している。



国東市 市長
三河 明史 氏

「国東市が取り組む SDGs政策」

潜在的な「自然資本」を価値化することで循環経済を形成し、カーボンネガティブを目指す。農林業の新たな収益源の創出と農林業離れを減らす。

パネルディスカッション

コーディネーターに(公財)九州経済調査協会の岡野部長、パネリストに(株)サステナブルスケール 平田代表のほか事例報告登壇者の3名、アドバイザーとして馬奈木教授をお招きし、「新国富指標を用いた地域経営～持続可能で豊かな地域(人・インフラ・自然)づくり～」をテーマにパネルディスカッションを行いました。

コーディネーター



(公財)九州経済調査協会
事業開発部長 岡野 秀之 氏

アドバイザー



九州大学 工学研究院
教授 馬奈木 俊介 氏

ほどほどの緩さは大事。
かちっと決めるのではなく
大枠の合意をとって少しづつ
前進させてく。

数値化が目的ではなく、
指標は一つのきっかけ。測れ
ないものをみえる化すること
により説得力が生まれる。

元気があれば何でもできる!

パネリスト



中間市 市長
福田 健次 氏

ファーストペンギン🐧たれ!!

パネリスト



国東市 市長
三河 明史 氏

①地域の豊かさの認識について



- 「豊かさ」の認識は変化していく。
SDGsの取り組みを客観的に評価し、強みと弱みを知ることで地域の豊かさがわかる。
- リスクを恐れず新しいことに挑戦する姿勢(=ファーストペンギン🐧になること)が幸せにつながる。

②持続ある豊かな地域づくりへの課題と方策

- 豊かさは感謝・共感すること。市民主体の行動であると行政が意識づけることが大切。
- 仕事選択の種類が少ない地方では、一次産業の振興が重要であり、事業継続のために市試行の取り組みを民間へ拡大したい。
- 地域の豊かさを継続していくためには企業の事業承継が重要。

産学官のリソースを活かす

パネリスト



(株)サステナブルスケール 代表
平田 慶介 氏

人中心の「まちなか」づくりを

パネリスト



九州地方整備局 建政部
都市調整官 松田 純一 氏

産学官で連携し、市民が主体となって小さなことからチャレンジし、少しでも結果を出していくことが持続可能で豊かな地域づくりにつながる。